

# 第3回 土橋自然観察教育林協議会 協議事項

開催日時：2013年9月13日（金）19：00～

開催場所：厚沢部町図書館視聴覚室

## 会 議 次 第

1. 開 会
2. 教育長挨拶
3. 協議事項

●樹名板の解説文について

平成25年度 第3回 土橋自然観察教育林協議会 資料

●樹名板記載事項まとめ

種名	別名	学名	科名	属名	(漢字名)	簡条書き解説
1 アオダモ		<i>Fraxinus lanuginosa</i>	モクセイ	トネリコ	青櫨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹皮は淡緑灰色～青灰白色でなめらか。</li> <li>・葉は3～7枚の小葉からなる奇数羽状複葉。</li> <li>・花には他のトネリコ属の種と異なり、白い花弁がある。複数の花を円錐状につける。</li> <li>・材は強硬で曲げやすい。特にバット材として人気があった。</li> </ul>
2 アカエゾマツ		<i>Picea glehnii</i>	マツ	トウヒ	赤蝦夷松	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹皮は赤褐色。</li> <li>・葉の断面は四角形で、指でつまんで転がせる。</li> <li>・トドマツ・エゾマツと共に「北海道の木」に指定されている。</li> <li>・エゾマツと比べて芽が出るのが遅いため、遅霜の影響はうけにくい。</li> </ul>
3 アカナラ	アカガシワ	<i>Quercus rubra</i>	ブナ	コナラ	赤櫨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北アメリカ原産。</li> <li>・幹がまっすぐにのび、原産地では樹高40m以上になることも。</li> <li>・葉はいびつに裂け、ヒイラギの葉を大きくしたような形状。</li> <li>・堅果(ドングリ)は幅広で、殻斗(ぼうし)は扁平。</li> </ul>
4 アカマツ		<i>Pinus densiflora</i>	マツ	マツ	赤松	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山地の峰など、乾燥地にもよく生える。</li> <li>・樹皮は赤褐色でうろこ状にはげる。</li> <li>・葉は針状で7～12cm、2本ひと束でつく。</li> <li>・クロマツと比べ、葉が柔らかく樹形も優しい所から雌松とも呼ばれる。</li> </ul>
5 イチイ	オンコ	<i>Taxus cuspidata</i>	イチイ	イチイ	一位、櫨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「オンコ」という呼び名はアイヌ語が由来。</li> <li>・熟すと赤くなる果実は野鳥やリスも好むが、果肉につつまれた種子の部分は人間には毒。</li> <li>・心材が赤褐色で美しく、良材は建築材・彫刻につかわれる。</li> </ul>
6 イチヨウ		<i>Ginkgo biloba</i>	イチヨウ	イチヨウ	銀杏、公孫樹、鴨脚樹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中生代(約3億年から7千万年前)から生育している。</li> <li>・一属一種。他に仲間のいない樹木。</li> <li>・果実の「ギンナン」という呼び方はもともと中国語。</li> <li>・幹や枝から乳根と呼ばれる、垂れ下った突起物が出る事もある。</li> </ul>
7 イヌエンジュ		<i>Maackia amurensis</i>	マメ	イヌエンジュ	犬槐	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小葉は全縁で、7～13枚の奇数羽状複葉。</li> <li>・枝を切るとやや臭気がある。</li> <li>・平たい豆のような果実がなる。</li> <li>・材は強硬で耐久性があり、濃い暗褐色で美しいため人気がある。</li> </ul>

種名	別名	学名	科名	属名	(漢字名)	箇条書き解説
8	ウダイカンバ	<i>Betula maximowicziana</i>	カバノキ	カバノキ	鶺松(明)樺	<ul style="list-style-type: none"> <li>・尾根上に生えるダケカンバに比べ、斜面下部に生える。</li> <li>・カンバ属では最も高齢(200年以上)、最も大木になる。</li> <li>・三角形に近い葉の付け根の部分は心形。</li> <li>・材としてはカンバ属では最高。良く燃えるので「トモシ(灯し)カンバ」とも。</li> </ul>
9	ウラジロモミ	<i>Abies homolepis</i>	マツ	モミ	裏白樅	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の特産種。モミより寒冷地に分布する。</li> <li>・葉は1.5~2.0cm長で、裏の2本の気孔線が目立つ。</li> <li>・球果は6~13cmとモミよりやや小さく、はじめは暗紫色だが熟すと黄褐色になる。</li> <li>・モミと異なり、冬芽がヤニにつつまれる。</li> </ul>
10	エゴノキ	<i>Styrax japonica</i>	エゴノキ	エゴノキ	(齊墩果)…本来はオリーブの意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリーブの漢名。</li> <li>・下向きの白い花を房状につける。よい香りがする。</li> <li>・果実の皮は有毒な「サポニン」を多く含み、かじるとえぐいたため「エゴノキ」と呼ばれるようになった。</li> <li>・昔は果実を洗濯や魚の捕獲に用いていたといわれる。</li> </ul>
11	エゾイタヤ	<i>Acer pictum</i>	カエデ	カエデ	蝦夷板屋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道を中心に分布するイタヤカエデ。</li> <li>・樹皮は灰色~暗灰色で、樹齢につれて縦に割れ目がはいる。</li> <li>・葉は全縁で掌状。5~7つに裂ける。</li> <li>・一年枝(その年に出た枝)が紅紫色を帯びる。</li> </ul>
12	エゾマツ	<i>Picea jezoensis</i>	マツ	トウヒ	蝦夷松	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アカエゾマツに対して樹皮が黒く、「クロエゾマツ」とも呼ばれる。</li> <li>・葉は平たく、裏側は白くて気孔線が2すじある。</li> <li>・トドマツ・アカエゾマツと共に「北海道の木」に指定されている。</li> <li>・アカエゾマツと比べて芽が出るのが早いいため、遅霜に弱い。</li> </ul>
13	オオモミジ	<i>Acer amoenum</i>	カエデ	カエデ	大紅葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹皮は淡灰褐色でなめらか、浅く裂ける。</li> <li>・葉はイロハモミジより大型。掌状で7~9に裂ける。細かい鋸歯がある。</li> <li>・三角形の冬芽は対生で2つずつつく。</li> <li>・種子には翼があり、2つずつプロペラ状に付く。</li> </ul>
14	オニグルミ	<i>Juglans mandshurica</i>	クルミ	クルミ	鬼胡桃	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小葉が9~21枚つく、羽状複葉(小葉がいくつかついて一枚を形成)。</li> <li>・葉痕(葉の落ちたあと)はヒツジの顔にもみえる。</li> <li>・クルミは1~3年おきにたくさんなり、リスなどの小動物のえさになる。</li> <li>・雌花は直立か斜めに立ち、穂状の雄花はたれ下がる。</li> </ul>
15	オノエヤナギ	<i>Salix udensis</i>	ヤナギ	ヤナギ	尾上柳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道では川岸や湿地に多く見られる。</li> <li>・枝を折った時の髓(ずい)(枝の芯の部分)の形はほぼ円形。</li> <li>・冬芽にはやや毛がはえている。</li> <li>・葉は先端以外は裏側にまいている。</li> </ul>

種名	別名	学名	科名	属名	(漢字名)	箇条書き解説
16 オヒョウ		<i>Ulmus laciniata</i>	ニレ	ニレ	於瓢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山地の中腹以下など、ハルニレより高い所に分布。</li> <li>・葉は先がとがり、3～5裂する。葉の形が一定でない(異葉性)。</li> <li>・小さい種子には翼があり、風で散布される。</li> <li>・アイヌは樹皮から「オピウ」と呼ばれる布を織った。</li> </ul>
17 カシワ		<i>Quercus dentata</i>	ブナ	コナラ	柏、榎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葉は大形で、倒卵形。波状の鋸歯がある。</li> <li>・堅果(ドングリ)は曲がったトゲの生えた殻につつまれる。</li> <li>・葉が枯れた後も芽吹き頃まで古い葉が落ちない。</li> <li>・上の事から、縁起物として「かしわ餅」の包みに用いられる。</li> </ul>
18 アズキナシ	カタスギ、ハカリノメ	<i>Aria alnifolia</i>	バラ	アズキナシ	小豆梨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・赤い果実がアズキのように小さく、ナシのようなつぶつぶの皮目をもつ事が由来。鳥が好んで食べる。</li> <li>・樹皮や枝のダイヤ型の皮目がてんびんの秤の目に見えるため、「ハカリノメ」という呼び方も。</li> <li>・葉は広卵形～楕円形で、重鋸歯縁。葉脈はせまく整列する。</li> <li>・白い花は小さく、上向きに房状になる。</li> </ul>
19 カツラ		<i>Cercidiphyllum japonicum</i>	カツラ	カツラ	桂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数本が同じ所からはえるように癒着している。</li> <li>・葉は心形で、2枚ずつ枝の同じ所からはえる(対生)。</li> <li>・小さな種子には翼があり、寿命は3年以上ある。</li> <li>・春～秋、晴れた日には砂糖をにつめたような香りがする。</li> </ul>
20 カラマツ		<i>Larix kaempferi</i>	マツ	カラマツ	落葉松、唐松	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本では唯一落葉する針葉樹。</li> <li>・寒冷地で育ちやすいが雪には弱い。</li> <li>・雪に強いグイマツとの交雑が盛んに行われる。</li> <li>・球果の鱗片はグイマツと異なってそりかえる。</li> </ul>
21 キタゴヨウ		<i>Pinus parviflora</i> var. <i>pentaphylla</i>	マツ	マツ	北五葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴヨウマツの北方変種。</li> <li>・葉は針状で3～8cm、5本ひと束でつく。ゴヨウマツより硬い。</li> <li>・球果中の種子について、ゴヨウマツは種子より翼が短い、キタゴヨウは翼のほうが長い。</li> <li>・正月の盆栽マツとしてなじみが深い。</li> </ul>
22 ギンドロ		<i>Populus alba</i>	ヤナギ	ヤマナラシ	銀泥	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ中南部、西アジア原産。街路樹や公園木に。</li> <li>・葉はてのひら状に3～5に浅くさける。</li> <li>・葉の裏には毛が密にはえているため、銀白色にみえる。</li> <li>・いくら強く枝を切っても、芽をふく力がつよい。</li> </ul>
23 グイマツ		<i>Larix gmelinii</i>	マツ	カラマツ	色丹松(シコタンマツ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「グイ」はアイヌ語の「クイ(黒い木)」からきており、落葉した木が黒く見えるため。</li> <li>・北海道本島には自生せず、より北の気候に適している。</li> <li>・寒さや雪に強い性質を活かし、カラマツとの交雑が盛んに行われている。</li> <li>・球果の鱗片はカラマツと異なってそりかえらない。</li> </ul>

種名	別名	学名	科名	属名	(漢字名)	箇条書き解説	
24	クリ		Castanea crenata	ブナ	クリ	日本栗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦にわれた樹皮が黒みがかっている。</li> <li>・葉は長い楕円形で、葉脈の上に細い毛が生える。</li> <li>・花の独特の生臭い甘い香りは、本州では梅雨の風物詩。</li> <li>・冬芽に「クリタマバチ」の虫こぶである、赤い膨らみが見られる事も。</li> </ul>
25	クロマツ		Pinus thunbergii	マツ	マツ	黒松	<ul style="list-style-type: none"> <li>・厚沢部町の木。潮風や乾燥に強いので海岸林に多い。</li> <li>・樹皮は灰黒色で大きく縦に裂ける。</li> <li>・葉は針状で6～12cmで、2本ひと束でつく。</li> <li>・アカマツと比べ、葉が硬く樹形が雄々しいため雄松と呼ばれる事も。</li> </ul>
26	ケヤキ		Zelkova serrata	ニレ	ケヤキ	欒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本州では山中などに群生するが、北海道では街路樹などで。</li> <li>・樹皮は灰白色～灰褐色で裂ける事はないが粗い。</li> <li>・種子は小さく、いびつな球形。</li> <li>・まっすぐのびる幹と、扇形に広がる樹冠が美しい。</li> </ul>
27	ケヤマハンノキ		Alnus hirsuta	カバノキ	ハンノキ	毛山榛の木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンノキより山側に生える。砂防緑化樹としても。</li> <li>・葉は浅い欠刻状の重鋸歯があり、裏に毛が密に生える。</li> <li>・冬芽はハンノキよりも丸くて大きく、毛が残る事も。</li> <li>・ハンノキ属は葉より先に花が開く。</li> </ul>
28	コナラ		Quercus serrata	ブナ	コナラ	小櫨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葉はミズナラに比べて小型で、鋸歯がするどい。</li> <li>・葉には葉柄があるが、ミズナラはほとんどないので区別できる。</li> <li>・堅果(ドングリ)はミズナラに比べて細みでちいさい。</li> <li>・本州では里山によく見られる樹種で、薪炭材として利用された。</li> </ul>
29	タニガワハンノキ	コバノヤマハンノキ	Alnus inokumae	カバノキ	ハンノキ	小葉の山榛の木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コバノヤマハンノキとも言われるほど、葉が小さく横に広い。</li> <li>・他のハンノキ属に比べて葉の鋸歯はよくとがっている。</li> <li>・他のハンノキ属の中でもさらに開花が早い。</li> <li>・樹皮はやや黒い。</li> </ul>
30	コブシ		Magnolia kobus	モクレン	モクレン	辛夷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デコボコな集合果の形が子供の拳ににている事が「コブシ」の由来。</li> <li>・樹皮は灰色でなめらか。</li> <li>・開葉より早く、白く香りのよい花をつける。</li> <li>・冬芽は毛につつまれ、花芽は葉芽よりも大きい。</li> </ul>
31	サトウカエデ		Acer saccharum	カエデ	カエデ	砂糖楓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北アメリカ原産。樹高30～40mにもなる。</li> <li>・掌状の葉は大形で、いびつに裂ける。カナダ国旗のデザインに使われている。</li> <li>・樹液を煮詰めたものはメープルシロップとして利用。</li> <li>・種子には翼があり、2つずつプロペラ状に付く。</li> </ul>

種名	別名	学名	科名	属名	(漢字名)	箇条書き解説
32 サワグルミ		<i>Pterocarya rhoifolia</i>	クルミ	サワグルミ	沢胡桃	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小葉が9～21枚つく、羽状複葉(小葉がいくつかついて一枚を形成)。</li> <li>・穂状の雌花・雄花はどちらもたれ下がる。</li> <li>・堅い大きなクルミ型ではなく、2枚の翼がついた小さい種子をつける。</li> <li>・直径×1が樹齡だといわれる。</li> </ul>
33 サワラ		<i>Chamaecyparis pisifera</i>	ヒノキ	ヒノキ	榧	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材質が「さわらか(さっぱり軽くて軟らかい)」である事からサワラ。</li> <li>・球果の中の種子には広い翼があり、風で遠くにとびやすい。</li> <li>・葉の裏にある白い気孔線はX字型に見える。(ヒノキ・ヒノキアスナロの葉と見比べてみてください)</li> </ul>
34 シウリザクラ		<i>Padus ssiori</i>	バラ	サクラ	朱利桜・朱里桜・朱桜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・果実にも樹皮も苦味があり、アイヌが「シウリ・ニ(苦い木)」と呼んだ事が語源。</li> <li>・葉は長い楕円形で、先は長くとがる。葉の付け根は心形。</li> <li>・蜜腺は葉柄の上部にある。</li> <li>・花は動物の尾のような房状(総状花序)。</li> </ul>
35 シナノキ		<i>Tilia japonica</i>	アオイ	シナノキ	科の木、級の木、梔の木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葉は心形で鋸歯があり、先がとがる。オオバポダイジュやポダイジュと異なり、裏には毛が生えていない。</li> <li>・淡黄色の複数の花を房状にならせる。</li> <li>・花はレモンの香りがし、良質のはちみつがとれる(蜜源植物)。</li> <li>・果実はやや球形で、柄にはへら状の包葉がつく。</li> </ul>
36 シラカンバ		<i>Betula platyphylla</i>	カバノキ	カバノキ	白樺	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹皮は白く、横にうすくはがれる。</li> <li>・春、幹に傷をつけると大量の樹液がふきだす。</li> <li>・花粉は風に乗って運ばれ、北海道での花粉症の原因にも。</li> <li>・三角形に近い葉の付け根の部分は直線状。</li> </ul>
37 シラビソ	シラベ	<i>Abies veitchii</i>	マツ	モミ	白檜曾	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モミやウラジロモミよりも高山帯に分布。</li> <li>・樹皮は灰白色で、幹にはヤニ袋(ヤニ玉)が多数みられ、枝からはユズのような香りがする。</li> <li>・樹形はきれいな三角形になる。</li> <li>・球果は4～6cmと小型で、熟すと暗青紫色になりすぎにばらばらになる。</li> </ul>
38 スギ		<i>Cryptomeria japonica</i>	ヒノキ(スギ科とすること)	スギ	杉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道では自生せず、渡島半島南部に造林されるものがほとんど。</li> <li>・成長の良いスギの幹は、樹皮が交差した「網目」の状態になる。</li> <li>・先のとがる葉は枝に直接つく。</li> <li>・萌芽性が旺盛で、枝がたれて地についた所から株ができる。</li> </ul>
39 スズカケノキ		<i>Platanus orientalis</i>	スズカケノキ	スズカケノキ	鈴掛の木、篠懸の木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ南東部～アジア西部原産。街路樹に利用。</li> <li>・樹皮がまだらにはげる。</li> <li>・掌状の葉は5～7に中裂し、ふぞろいな鋸歯がある。</li> <li>・鈴のような球形果をつける。</li> </ul>

	種名	別名	学名	科名	属名	(漢字名)	箇条書き解説
40	ストローブマツ		<i>Pinus strobus</i>	マツ	マツ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・北米・カナダ原産。</li> <li>・材が白いため、ホワイトパイン(White Pine)と呼ばれる。</li> <li>・球果(松かさ)は白いヤニが多く、下にたれる。</li> <li>・葉にはビタミンCがレモンの約5倍も含まれ、ハーブティにして飲用されることも。</li> </ul>
41	ダケカンバ		<i>Betula ermanii</i>	カバノキ	カバノキ	岳樺	<ul style="list-style-type: none"> <li>・亜高山や高山の尾根上に生える。</li> <li>・樹皮はシラカンバに比べて、赤みがある。</li> <li>・三角形に近い葉の付け根の部分は直線状～丸みをおびる。</li> <li>・果穂はシラカンバでは垂れ下がるが、ダケカンバは直立する。</li> </ul>
42	チョウセンゴヨウ		<i>Pinus koraiensis</i>	マツ	マツ	朝鮮五葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山地に自然分布するが、北海道では主に街路樹。</li> <li>・葉は針状で6～12cm、5本ひと束でつく。</li> <li>・球果は大きく、中の種子も大きい。</li> <li>・種子の栄養価は高く、エゾリスはじめ野生動物も好んで食べる。</li> </ul>
43	テウチグルミ	カシグルミ	<i>Juglans regia</i>	クルミ	クルミ	手打胡桃(菓子胡桃)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ、アジア西部原産。食用クルミの採取元。</li> <li>・羽状複葉(小葉がいくつかついて一枚を形成)の一番上の小葉が一番大きい。</li> <li>・手でも割れる事から「テウチ」グルミという。</li> <li>・雌花は直立し、穂状の雄花はたれ下がる。</li> </ul>
44	トチノキ		<i>Aesculus turbinata</i>	トチノキ	トチノキ	栃、椴、栃の木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山地帯の沢地に多く分布する。</li> <li>・葉は20～25cmの小葉5～7枚からなる掌状複葉。</li> <li>・蜜の多い白い花が複数、タワー状に直立して咲く。</li> <li>・厚い皮につつまれた、大きなクリに似た果実になる。</li> </ul>
45	トドマツ		<i>Abies sachalinensis</i>	マツ	モミ	榎松	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹皮は地衣類が着生しているため灰白色。</li> <li>・葉は平たく、先は2つにわれる。枝にはらせん状につく。</li> <li>・毳果の苞鱗片(種子をつつむ鱗片)がより長いものが、北方に生息するアオトドマツ。</li> <li>・エゾマツ・アカエゾマツと共に「北海道の木」に指定されている。</li> </ul>
46	ドロノキ		<i>Populus suaveolens</i>	ヤナギ	ハコヤナギ	泥木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川岸などの、日当たりの良い湿った所に生える。</li> <li>・開葉は初夏から順次はじまるが、葉が落ちるのものはやい。</li> <li>・種子には綿毛がはえ、風で遠くに運ばれる。</li> <li>・凍結・寒さ・ネズミなどに強く、成長もはやいので、北海道では生産性の高い材として期待されている。</li> </ul>
47	ナナカマド		<i>Sorbus commixta</i>	バラ	ナナカマド	七竈	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和名は「七回かまどにくべても燃えないから」という説が一般だが、「七日間かまどで焼くと良い炭がとれるから」という説もある。</li> <li>・葉は小葉が9～15枚の奇数羽状複葉。</li> <li>・房状になる赤い果実は、鳥も好む。隔年で豊作になる。</li> <li>・紅葉が美しい。</li> </ul>

種名	別名	学名	科名	属名	(漢字名)	箇条書き解説
48 ニオイヒバ		<i>Thuja occidentalis</i>	ヒノキ	クロベ	匂桧葉, 匂檜葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北アメリカ中北部原産。</li> <li>・葉はヒノキ科の中では扁平で、裏に白い気孔線はない。</li> <li>・葉をもむと良い香りがし、抽出できる精油には家ダニへの強い殺虫効果があるといわれている。</li> <li>・球果は0.8~1cmほどの小型で、長楕円形。</li> </ul>
49 ハリエンジュ	ニセアカシア	<i>Robinia pseudoacacia</i>	マメ	ハリエンジュ	針槐	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北米原産。各地に植栽された結果、野生化している。</li> <li>・小葉は全縁で、奇数羽状複葉。</li> <li>・房状に咲く白い花は、蜜が豊富で昆虫が集まる。</li> <li>・イヌエンジュと異なり、幹や枝にはトゲがある。</li> </ul>
50 ネムノキ		<i>Albizia julibrissin</i>	ネムノキ	ネムノキ	合歓木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜になると葉を閉じる様子が「ねむ」っているように見える事が「ネムノキ」の由来。</li> <li>・葉は小葉36~58、羽片14~24からなる、2回羽状複葉。</li> <li>・花はほうき型でピンク色。香りは桃のように甘い。</li> <li>・平たい豆果は約10cm。</li> </ul>
51 ノルドマンモミ	コーカサスモミ	<i>Abies nordmanniana</i>	マツ	モミ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・東ヨーロッパ原産。</li> <li>・葉は針状で濃緑色、裏の2本の気孔線が目立つ。</li> <li>・球果は15~20cm、暗緑色~赤褐色で上向きにつく。</li> <li>・枝を切りだし乾燥しても葉が落ちにくいので、「クリスマスツリー」として一番人気の樹種。</li> </ul>
52 バッコヤナギ		<i>Salix caprea</i>	ヤナギ	ヤナギ	跋扈柳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日当たりのよいやや乾いた所に生える。</li> <li>・枝を折った時の髓(ずい)(枝の芯の部分)の形は五角形。</li> <li>・葉の裏側は粉をふいたような白色。白い縮毛が密にはえる。</li> <li>・ヤナギの仲間の中では最も大木になる。</li> </ul>
53 ハリギリ	センノキ	<i>Kalopanax septemlobus</i>	ウコギ	ハリギリ	針桐	<ul style="list-style-type: none"> <li>・枝や若木にトゲがある。</li> <li>・樹皮は厚く、コルク質で当時は栓として使用される事もあった。よって「センノキ(栓の木)」とも呼ばれる。</li> <li>・葉は大形で掌状、5~9つに裂ける。葉柄が長い。</li> <li>・いくつかの花が集まった球形の花序をつけ、黒い果実がなる。</li> </ul>
54 ハルニレ		<i>Ulmus davidiana</i>	ニレ	ニレ	春榆	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北地の平地などオヒョウより低い所に分布。</li> <li>・葉は倒卵形で先がとがる。表面はざらつく。</li> <li>・小さい種子には翼があり、風で散布される。</li> <li>・アイヌの伝説では雷神がハルニレの姫の上に落ちて人間の祖先が生まれたといわれている。</li> </ul>
55 ハンノキ		<i>Alnus japonica</i>	カバノキ	ハンノキ	榛の木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川岸や湿地に生える。</li> <li>・ハンノキ属は葉より先に花が開く。</li> <li>・冬芽はネバネバする。</li> <li>・材には油分がふくまれ、よく燃える。</li> </ul>

	種名	別名	学名	科名	属名	(漢字名)	箇条書き解説
56	ヒノキ		<i>Chamaecyparis obtusa</i>	ヒノキ	ヒノキ	檜、桧	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀な建築材。</li> <li>・「ヒノキチオール」という精油が有名だが、日本産ヒノキには少ない。</li> <li>・葉の裏にある白い気孔線はY字型に見える。</li> <li>・(サワラ・ヒノキアスナロの葉と見比べてみてください)</li> </ul>
57	ヒノキアスナロ	ヒバ	<i>Thujopsis dolabrata</i>	ヒノキアスナロ	アスナロ	翌檜、羅漢柏(らかんはく)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道では道南に自生。厚沢部町付近が自生北限。</li> <li>・枝が地につくと新しく根をだす「伏状更新」をする。</li> <li>・葉の裏にある白い気孔線はW字型に見える。</li> <li>・(サワラ・ヒノキの葉と見比べてみてください)</li> </ul>
58	ブナ		<i>Fagus crenata</i>	ブナ	ブナ	山毛櫨、櫨、榲、栂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹皮は灰白色で滑らか。</li> <li>・葉には波状の鋸歯(ギザギザ)があり、やや厚みがある。</li> <li>・冬芽は1~3cm程に長く、先がとがる。</li> <li>・円錐形の種子は、曲がったトゲの生えた殻につつまれる。</li> </ul>
59	ホオノキ		<i>Magnolia obovata</i>	モクレン	モクレン	朴の木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹皮は灰色でなめらか。</li> <li>・倒卵形の葉は20~40cmと大きい。</li> <li>・白く大きな花からはよい香りがする。</li> <li>・冬芽は大きく暗紫褐色。2枚の托葉にキャップ状につつまれている。</li> </ul>
60	ミズキ		<i>Cornus controversa</i>	ミズキ	ミズキ	水木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・枝を切ると水がしたたるくらいみずみずしい事が和名の由来。</li> <li>・大枝は一年に一度ずつ幹に階段状に展開する。</li> <li>・葉は広卵形~楕円形で全縁。葉脈は葉の形にそって先端まで続く。</li> <li>・小枝が赤く、縁起がいいので正月の飾り(まゆ玉)に使われた。</li> </ul>
61	ミズナラ		<i>Quercus crispula</i>	ブナ	コナラ	水櫨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型の葉には、大きな鋸歯がある。</li> <li>・先のとがる冬芽は、枝の先にいくつかつく(頂生側芽)。</li> <li>・堅果(ドングリ)はコナラよりも大きい(2~2.5cm)。</li> <li>・ミズナラの林にはマイタケが発生しやすい。</li> </ul>
62	モミ		<i>Abies firma</i>	マツ	モミ	樅	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本のモミ属では最も暖温帯に分布。</li> <li>・葉はやや大きく、先の2裂が目立つのが特徴。</li> <li>・球果は10~15cmと大きく、はじめは緑色だが熟すと灰褐色になりすぐにばらばらになる。</li> <li>・ウラジロモミと異なり、冬芽にヤニがない。</li> </ul>

種名	別名	学名	科名	属名	(漢字名)	箇条書き解説
63 ヤチダモ		<i>Fraxinus mandshurica</i>	モクセイ	トネリコ	谷地榊	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やや湿った所に分布する。</li> <li>・葉は小葉7～11枚からなる奇数羽状複葉。</li> <li>・種子には翼があり、風によって運ばれる(風散布)。</li> <li>・幹のすきまに雪虫(トノネオオワタムシ)が産卵しに飛来する。</li> </ul>
64 ヨーロッパアカマツ	シベリアアカマツと同種	<i>Pinus sylvestris</i>	マツ	マツ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ・シベリア原産。</li> <li>・葉は針状で4～7cm、2本ひと束で付く。アカマツより短く裏の白い気孔線がはっきりしている。</li> <li>・材がやや赤みががっているため「レッドパイン」とも呼ばれる。</li> <li>・球果(松かさ)は熟すのに3～5年かかり、灰褐色～赤褐色になる。</li> </ul>
65 ヨーロッパクロマツ	シベリアクロマツ	<i>Pinus nigra</i>	マツ	マツ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ原産。</li> <li>・クロマツよりも葉や樹皮が黒っぽい。</li> <li>・葉は針状で8～15cm、2本ひと束でつく。</li> <li>・球果(松かさ)は熟すのに2年かかり、黄褐色になる。</li> </ul>
66 オウシュウトウヒ	ドイツトウヒ、ヨーロッパトウヒ	<i>Picea abies</i>	マツ	トウヒ	欧州唐檜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ原産。ドイツのシュバルツバルト(黒い森)を形成する樹木。</li> <li>・原産地では樹高が70mになることもある。</li> <li>・球果(松かさ)はトウヒ属の中で最もおおきく、10～20cmほどにもなる。</li> <li>・老木や木の下の方につく枝は、重さで垂れ下がっていることが多い。</li> </ul>
67 ルーベンストウヒ	レッドスプルース	<i>Picea rubens</i>	マツ	トウヒ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・北アメリカ東部原産。湖沼の傍によく生える。</li> <li>・当時は若い枝を蜂蜜などと発酵させ、壊血病の薬としていた。</li> <li>・球果は3～4cmで熟すと赤褐色になり、すぐにばらばらになる。</li> <li>・材はヒノキのような香りがし、やや赤みがかかるため「レッド・スプルース」とも呼ばれる。</li> </ul>